

KOYO ROMANIA S. A.

- 光洋ルーマニア, K R A -

1. 会社概要

社名 KOYO ROMANIA S. A.
 所在地 ルーマニア アレキサンドリア
 創立 1998年
 従業員 3450人
 業種 軸受, その他の製品の製造, 販売

2. 地域の紹介

ルーマニアと聞いて何を思い出されますか？昔オリンピックの体操で活躍したコマネチ, 女子マラソンの現在世界ランキング1位のシモン, 社会主義が崩壊する時抵抗し, 最後に血の革命で倒れたチャウシェスク大統領...しかし国としてアピールするものが少ないだけ記憶にとどめて頂く機会が少ないのでしょうか. 先般, あるルーマニアの小都市で日本の旅行者に出会いました. その時「どうしてルーマニアに来る気になったのですか?」と尋ねると「人が行ってなくて, 日本に帰って話をすると珍しがられる国に行ってみたかった。」と言われ, 我々はこんな国に住んでいるのかと思わず呟いてしまいました.

観光資源として, ドナウ川が最終黒海に注ぐ大きなデルタ湿地帯があります. ここは渡り鳥の多さ(300種類以上)とその広さ(東京都の約2倍)ゆえ, 世界遺産に登録されています. そのほかに, この国の中央に位置するカルパッチ山脈は2000m級の山が連なり, スキー客で賑わいますし, 黒海沿岸は夏になると欧州からの観光客で一杯になります. それにドラキュラ伝説を訪ねる観光ルートがありますが, これはご存知のようにイギリスの作家の作り話です.

ドラキュラ伯爵は実在の人物で, 治世もうまく庶民に信頼の厚かった領主のようですが, トルコとの戦いで籠城した際, 城外に杭を立てその杭に侵略してきたトルコ兵を突き刺し, トルコ兵が戦意を失うようにしたことから, あのような小説ができたと言われています.

ブカレストには世界で2番目に大きな建物があります(1番大きいのはアメリカのペンタゴン). これは現在では“人民の館”と呼ばれていますが, 我々は“チャウシェスク宮殿”と呼んでいます.



チャウシェスク大統領はこの建物を国民の飢餓の時代に建て始めました. 革命までには完成しなかったため, 彼はここに住む前に銃殺されてしまいました. 今は一部が国会として使われていますが, 35万平方メートルの建物は大きすぎて, もてあましているようです.



人民の館(チャウシェスク宮殿)

ルーマニアの首都ブカレストは昔“プチパリ”と呼ばれたり, 国そのものは“スラブの海に浮かぶラテンの国”と言われたりしています. 20世紀初めには小奇麗な町であったことを彷彿させる建物がまだ多く残っています. 歴史的には紀元後1世紀にローマ帝国により占領され, ローマ人がこの地域の原住民であるダキア人に大きな影響を与えてきた国と言われ, ルーマニアの国名もこれに関係していると考えられています. その後北からハンガリー, ロシア, 南からトルコとこの国

の一部が占領され続け、3カ国に分裂していたのが、第一次世界大戦後の1918年に一つの国・ルーマニアとして統一され、1600年以來の悲願が達成されました。参戦により戦勝国となったことを記念し、ブカレスト市内に凱旋門があります。第二次世界大戦で領土の一部を失い今日に至っています。



凱旋門

人種的にはラテン系で明るく、人なつっこく、親切と一緒に楽しく仕事ができます。自然に親しみながらおいしい自家製のワインを自家製のハム、トウモロコシの芯を炭のように使って焼いたパン、釣ってきたばかりの魚、先ほどまで走っていた鶏を肴にして飲む時はすっかり日頃の煩わしさと文明生活を忘れさせてくれます。

この国の人の手先は器用ですし、教育水準は高く、優れた技能者が多くいます。そして彼らは1980年代には大変な経験をしています。それは社会主義の最終段階に入った時、機械のスペアパーツを買う外貨も制限されていたため、何でも自分で作るしか他に方法がありませんでした。時間を掛けますが、何とか模造品または代替品を作り、生産を継続させる努力とその知恵の数々を見ると、ここでは日本では昔に忘れ去られた技能の継承があり、それを生かした言動が身に付いていることがよくわかります。日本では機械が故障するとメーカーに電話すれば、教えてくれるか飛んできてくれます。こんなことが通用しない所で仕事をしていると、ときどき日本はこれで良いのだろうかと考えさせられることもあります。

困ったことに話題の少ない小さな街ですから、日本人は格好の話題提供者であり、我々日本人のことはなんでも早く伝わるようです。我々は相手を知りませんが、彼らは在住の日本人を見知っており、何かあると大勢が駆けつけてきていろいろ面倒を見てくれます。時にはありがた迷惑なので

すが、人の親切を無にしないための寛容さが要求される場面です。

古いフランスのことわざに“ルーマニア人の小地主のごとく金を使う”というのがあるそうで、さしずめ日本で“湯水のごとく金を使う”と同じ意味です。このようにダニユブ(ドナウ)川のもたらした肥沃な土地があり、豊かな典型的な農業国であったこの国をチャウシェスクは急激に工業国に変えようとし、田舎の小さな町々に不似合いな工場を次々に建てます。その工場に入れる設備の輸入代金を農業製品の輸出でカバーしたため飢餓輸出と呼ばれ、国内に食料が残らずこれが革命の大きな起爆剤になりました。本来の計画では工業化してその製品を輸出して外貨を稼ぐことであったと思うのですが、極端に買いたたかれていたようです。

3. 会社の紹介

- 1971 ルーマニア工業省と光洋精工でプラント輸出契約締結
- 1974 生産開始
- 1991 ルーマニアにあった6つの工場がそれぞれ独立して新会社になる
新社名：RULMENTI ALEXANDRIA S. A.
- 1998 ルーマニア国家基金と買収契約締結
新社名：KOYO ROMANIA S. A.設立
- 1998 ISO9002取得



KRA

ルーマニアは他の社会主義国家の考え方とよく似ており、輸出して資本主義国の外貨が稼げる部門に集中的に投資を行いました。光洋精工は、ここルーマニアに3つの工場をプラント輸出の形で建設しましたが、他の2つの工場はすでにあった工場の拡張でした。しかし、このアレキサンドリア工場だけはグリーンフィールドから建ち上げ、

それだけにほとんどの生産設備は光洋精工にあるものとまったく同じでした。敷地面積は39万平方メートルと広大で軸受の部品すべて、それを作る治具・装置まで100%社内で加工する工場として操業を開始しました。これは日本のように社外の会社に委託する産業基盤が未整備であったことにもよります。また、数少ない軸受生産の経験者を中心に地元の人を教育、訓練しながら生産を始めねばなりませんでした。

ルーマニアには6つの工場があり、それが1991年に6つの会社に独立しました。そのうちの3社はそれぞれKOYO、TIMKEN、トルコの会社と契約、後の3つはまだ国营会社として残っています。

アレキサンドリア市は人口5万人、首都ブカレストから南西100kmに位置した小さな町です。いわゆる企業城下町で会社を建て、町もそれにつれ大きくなったことから町の人々からは大きな期待をもたれていると同時に親近感を持った運命共同体のような関係にあります。

4. 今後の展望

今でも元社会主義国の優等生ポーランド、チェコ、ハンガリーに比べると大きく立ち遅れておりますが、中東欧で2番目の大きな人口を持つ市場と地理的には黒海に面し地中海に通じる港があり、世界に船で輸出ができる利点を生かせば将来性はあると信じています。

ここから車で2時間のブカレストは今大きく変わりつつあります。大きな外資系のスーパーマーケット、お客さんが入っているのを見たことはありませんが、有名ブランドの店が急速に増えています。この国の人々が夢に見た、そして多くの人がこの夢のため犠牲になった資本主義国家の豊かさが一般庶民のものになるまで、そしてそれがここアレキサンドリア市に及んでくるまで、まだまだ時間は掛かると思いますが、足音は聞こえてきそうです。

我々も彼らとともにこの夢を一日でも早く実現することがこの会社の発展にも繋がることと信じ、彼らと一緒に汗を流している日々です。

(軸受事業本部)